



2011年7月地デジ化 完了

Analog broadcast will fully switch over to Digital broadcast by July 2011.

©日本放送協会2011

地デジ化でお困りの方のご家庭を訪問して、丁寧に説明・何でも相談承ります

アナログ放送終了まであと4か月です、地デジの準備をお急ぎください！

アナログ放送終了まで残り4か月となりました。地デジをご視聴いただくための、テレビやアンテナの準備はお済みですか。地デジ化でお困りの方で、世帯に直接訪問してのご対応をご希望される方には、デジサポ埼玉が無料でお手伝いします。

概ね65歳以上の方や、障がいをお持ちの方等で、ご自宅を訪問して、地デジ化についてのご説明や、ご相談を伺ったり、具体的な対応方法についてのご提案をご希望される方は、是非、デジサポ埼玉の無料「戸別相談（訪問相談）」をご利用ください。

詳しくは、デジサポ埼玉または、総務省地デジコールセンターまでお電話ください。また、デジサポホームページ（http://www.digitasppo.jp/）でもご案内しています。

でんわ急げ！デジサポへ

地デジで「困った！」は、何でもお電話でお問い合わせください。

※受付時間は、いずれも 平日9時～21時、土日祝日9時～18時

・総務省 埼玉テレビ受信者支援センター（デジサポ埼玉） ☎048-610-8080

・総務省 地デジコールセンター ☎0570-07-0101（ナビダイヤル）

※IP電話等、ナビダイヤルが繋がらない方は、☎03-4334-1111でお受けしております。



職と住居を失った方への住宅手当

- 支給対象者** 平成19年10月1日以降に離職し、住居を喪失している人（喪失するおそれのある人を含む）で、就労意欲のある人
- 支給要件**
 - ①収入が一定額以下であること
 - ②預貯金が一定額以下であること
 - ③ハローワークに求職登録を行って、常用就職に向けた就職活動を行っていること
 - ④暴力団員でないこと
- 支給期間** 原則6か月（一定条件の下、最大で9か月）
- 支給額** 賃貸住宅の家賃額（ただし、地域・世帯員数ごとの上限額及び収入に応じた減額調整あり）
- 問合せ** 健康福祉課 社会福祉担当 ☎62-0716（直通）



嵐山町総合振興計画審議会から答申書が提出されました

嵐山町総合振興計画審議会は、昨年7月23日から5回の会議を経て、去る2月10日に第5次嵐山町総合振興計画（案）について答申書を提出しました。

会議は公開し、12月にはパブリックコメントを取るなど開かれた審議会を目指しました。会議の資料、会議録、答申書、パブリックコメントの結果などはホームページに掲載しております。是非ご覧下さい。

問合せ 政策経営課 ☎62-2152（直通）



教育の広場

七郷小学校



百人一首の取り組み

「秋の田の かりほの庵の苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ」

11月の「七小まつり」での開会セレモニー。百人一首の全校暗唱がしつとりと体育館に響きわたりました。

本年度、学校課題である「言語活動の充実」を受けて我が国の伝統文化・古典についての学習の充実をふまえた取り組みの一つとして百人一首の暗唱を始めました。

暗唱の合格は、休み時間に、校長室で検定をし合格シールを貼ってもらおう。百首合格した児童には、合格証を渡し、写真入りおめでと



うカードを掲示していくという取り組みです。

始める前は、低学年には難しいのではないかと心配がありました。しかし、子どもたちは、練習していくにつれて「五・七・五・七・七」の美しい音律やリズムに触れながら、調子をとって覚えることに慣れていきました。

今は、百首合格できた24人の児童のおめでとうカードが、職員室の廊下の掲示板の一面をうめつくすほどに頑張っています。勿論、心配した低学年の子どもたちも順調に覚えることができました。今では、

「校長先生、聞いてください。」と、校長室は休み時間ごとに、百人一首を聞いてもらおう子どもたちでいっぱいです。

昨年までは、「六年生を送る会」で、「郷土カルタ大会」をしていましたが、今年は、「百人一首大会」と計画中です。体育館に百人一首の美しい音律と、取り札をとる子どもたちの元気な声が響くことを楽しみにしています。



教育相談室

小学校入学に向けて

小学校入学をひかえ、保護者の皆さんや入学予定のお子さんは、期待と不安が入り混じっているのではないのでしょうか。学校は静かに話を聞いたり、友達と一緒に活動したりする場面が多くあります。集団生活をスムーズにスタートするために、嵐山町の小学校では、早起き・きちんと朝食をとる習慣・衣服の着脱と整理・上手なトイレの使い方・友だちと楽しく遊ぶこと・「はい」という大きな返事ができる等、ご家庭にお知らせしています。

そこで、これらのことを身に付けさせるためのポイントをいくつかご紹介致します。

早起き・早起きの習慣をつけるためには、食事など、そのほかの生活リズムをきちんと維持させることが大切です。そして、子どもが決められた時間で早起きできるときは、よくほめてあげましょう。それが、よい生活習慣を維持させるためのポイントです。

7歳くらいまでは、子どもたちだけで仲良く遊ぶことは難しいかもしれません。その間は、親が近くで見守り、仲間はずれやけんか起きたときは、みんなが楽しく遊べるルールを

ルを考えさせたり、遊びを工夫させたりします。また、子どもたちが遊んでいる中に親も参加すると、子どもを通して親同士の交流ができ、そこから大人にとっても友だちの輪がどんどん広がります。親が誰とも仲良くお付き合いができる、子どもはそれをまねして同じように仲良く遊べるようになります。

自分の名前を呼ばれたら、相手の方を見て「はい」と返事ができるようにしましょう。返事には、話を聞いていたかどうかだけではなく、その内容を理解できたかどうかを相手に伝える意味もあります。子どもが「お母さん」と呼んだとき、お母さんが「はい」と返事を返してやることで、子どもにとって一番のお手本になります。

「入学までに」とか「一年生になったら」と思うことは、たくさんあります。でも、それを「やらねばならない課題」としてしまわずに、「こんなことが、一人でできたらすてきなね」と親子で、はじめのステップをワクワク楽しんでいただきたいと思います。

参考 『二年はじめのいっぽ』 子どものしあわせ編集部 編 朝倉文化 『小学校生活でつまらないしつけと自立』 谷田貝公昭 監修 合同出版